









令和元年 **1 2**月の大阪森林便り

目次

今月の木の話 木材だけが持っている四つの特質を知る

- (1)  森林整備の新制度始動 譲与税の配分巡り異論
- (2)  木材・鉄原料輸出 ロシアが拡大策
- (3)  輸入合板 下げ止まり
- (4)  吉野杉ギター 200年の響き 奈良の工房、受注開始
- (5)  国産針葉樹合板 生産10年で1.5倍
- (6)  木質バイオマス 日本製紙 最大級
- (7)  米松製材品が下落 競合の集成材値下げ
- (8)  “木”がつくる都市の未来 「コンクリートから木へ」



今月の木の話

木材だけが持っている四つの特質を知る

*木材を正しく使うためには、木材がどんな性質を持っているかを知ることが大切です。

- ①樹種による差異：木材は樹種によって色合い、硬さ、強さ、弾力性、大きさ、耐久性などが違います。
- ②木材の構造によって生じる反り、ねじれ、割れなどは、乾燥材においてはほとんど止まりますが、木材は湿気を吸排しているので、わずかながら伸縮を繰り返しています。
 - ・木材を使う上で配慮しなければならない大切なポイントです。
- ③異方性：木材は長さの方向とそれと直角の方向とで、強度や収縮率に大きな違いがあります。
 - ・異方性があることと質が均一でないことは相通じること、つまり一本一本の木の強さが異なることを意味します。
 - ・それを修正するために、均質性を目指した木質材料が生まれました。
 - ・異方性があることは木材の特長でもあります。
 - ・木材は異方性が著しく、柱の外力を支える圧縮方向（繊維方向）には強いですが、普段人が接する横の面はソフトで温かみを感じるという、住まいとしては都合の良い二面性を持っています。

④節があること：節は枝の樹幹部における名残です。

・木部と密着している生き節と、すでに枯れ死したもので木部と離れていて抜け節となり抜け穴を生じることになる死に節のように、使ってよい節と使ってはいけない節があります。

・小さい節は強度にあまり関係がありませんが、大きい節があると強度が著しく低下します。

(日本林業調査会「木材に強くなる本」より抜粋・引用)



(1) 森林整備の新制度始動 譲与税の配分巡り異論

*日本の国土のほぼ3分の2を占める森林。

*4月に森林経営管理法が施行。

・市町村が所有者に代わって伐採や出荷に取り組む新制度。



*2024年度から東日本大震災の復興税が森林環境税に衣替え。

・新制度の開始に併せて国が借金をして自治体に配るのが譲与税。

・今年度の配分額は全国で200億円。

・最終的には600億円に。

*譲与税は、自治体ごとの人工林面積と林業就業者数で7割を配分し、残る3割は人口比に。

*今年度に1億4千万円が入る横浜市は、小中学校の内装や備品に国産材を使う計画。

・1億円強の大阪市は、保育園児が遊ぶ木製遊具の購入費などにも充てます。

*森林の荒廃は、台風で水害が深刻化する一因。

森林環境譲与税の9月配分額の上位10市

(単位万円、来年3月に2回目を配分予定)

1	横浜	7104	6	京都	4813
2	浜松	6067	7	札幌	4689
3	大阪	5480	8	名古屋	4464
4	田辺(和歌山)	5285	9	郡上(岐阜)	4243
5	静岡	5048	10	日田(大分)	4148

(2019年11月4日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(2) 木材・鉄原料輸出 ロシアが拡大策

旺盛なアジア需要狙う

*ロシアが商品取引所を使い、製鉄原料の鉄スクラップや木材の輸出拡大に乗りだします。主に需要が拡大するアジア市場向け。

☆ロシアの木材輸出

*森林面積が広大なロシアは、旧ソ連時代から木材の輸出国。

*最近では丸太が減り、製材や合板といった付加価値の高い製品の輸出を増やす傾向。

*輸出先でトップは中国ですが、上位には日本、韓国などアジア諸国が目立ちます。

*2018年の日本の製材輸入額で、ロシアからは2位の13%を占めました。

(2019年11月5日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) 輸入合板 下げ止まり

取引減/マレーシア大手値上げ 構造用は品薄感

*輸入合板の価格が下げ止まりました。

*商社が輸入量を減らしているうえ、マレーシアの合板大手が値上げを表明。

*9月の輸入量は186,812M3と前年同月比10%減。前年割れは11か月連続。

*構造用は品薄感。

*12月積みの対日価格を11月比5%引き上げ。

(2019年11月9日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(4) 吉野杉ギター 200年の響き 奈良の工房、受注開始

*吉野杉の大径木を使ったクラシックギターが誕生。

・奈良県御所市のギター工房が製作。

*吉野杉は近年の需要減少と木材価格の低迷に悩みます。

・奈良県などは、新たな用途開発や発信を通じてアピール。

*ギターは、音を響かせる表板に推定樹齢200年超の吉野杉の建築用天井板を転用。

・通常はスプルースや米杉が使われ、国産材は珍しいようです。

*育成期間が長く木目の詰まった吉野杉には、楽器製作に十分な強度がある

ようです。

*奈良県森林技術センターが木材の振動特性を測定、ギター用材として利用できることを確認。

*1本 40万～50万円程度での販売を想定しています。

(2019年11月14日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(5) 国産針葉樹合板 生産10年で1.5倍

耐震補強用に採用拡大 住宅・建築用 輸入品からシフト

*国産針葉樹合板の生産量が過去最高を更新。

・2018年の生産量は309万m³と、10年間で1.5倍に増加。

・非住宅向けも拡大。

*新設住宅の6割を占める木造の戸数は、2018年度が約55万戸。

*壁などに使う構造用合板は9割、床板に使うフロア合板も3割が国産材に。

*木造建築物に占める公共建築物の割合は、2017年度に13.4%と2010年度に比べ5.1ポイント上昇。

(2019年11月16日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(6) 木質バイオマス 日本製紙 最大級

国内の発電容量、5年で1.9倍に

太平洋セメント、ヤシから燃料

*バイオマス発電所の国内の発電容量が2023年度末に約770万キロワットと、2018年度末の1.9倍に。

*再生エネの発電容量は2018年度末時点で、住宅用の太陽光が1000万キロワット、事業向けの大規模太陽光が4000万キロワット、風力が約370万キロワット。

*日本製紙は、2023年1月に出力75,000キロワットのバイオマス発電所の運転を始めます。

*太平洋セメントは、売電向けの発電プラントを2020年初めに稼働。

・廃棄していたパームヤシの房を燃料に。

*バイオマスで発電した電気を一定の価格で買い取る制度が2012年に始まりました。

・燃料に国産木材を使った方が電気の買取価格は高くなります。

・買取期間は 20 年間。

燃料ペレット 確保課題 調達の 9 割、輸入頼み

*バイオマス発電には、燃料調達の難しさという課題。

*政府は国内の電源に占めるバイオマス発電の比率を、現在の 1.5%から 2030 年度に 3.7~4.6%に引き上げる目標。

・この目標を達成するのに必要な燃料は、木質ペレット換算で年間 3000 万トン。

*2018 年の木質ペレットの供給量は、国産と輸入を合わせても約 120 万トン。

・そのうち 9 割が輸入品。

*木質ペレットの輸入量は、過去 5 年間で 10 倍に増加。

・国内生産量はほぼ横ばい。

※木質ペレット：おがくずなどを圧縮して作ります。

(2019 年 11 月 22 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(7) 米松製材品が下落 競合の集成材値下げ

*製材品の流通価格が一段と値下げ。

*米松 KD 平角の価格は、前月に比べて 3.5%安。

・2017 年 10 月以来の安値。

*競合する欧州産を主体とする集成平角が値下がり。

(2019 年 11 月 22 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(8) “木”がつくる都市の未来 「コンクリートから木へ」

木造建築シンポジウム 2019

*地球環境への意識が急速に高まる中、木材が環境材料として見直されており、世界、日本でも続々と大型の木造建築が誕生。

*コンクリートが登場する前は、世界中のどこでもその土地にあった素材で建築物を作っていました。

・日本の場合は、それが木だったのです。

*材料の選び方や見方など、木にまつわるトータルなシステムは他国を圧倒。

*「地元の材料を使って、地元の文化を意識する」という考え方。

中高層木造建築の増加が地域活性化を促す

*日本の国土は 7 割を森林が占めています。

*中高層木造建築を作るには耐火性能を持つ木材が必要。

*CLT（クロス・ラミネーティッド・ティンバー）というヨーロッパ生まれの板状の集成材も、すでに広く利用されています。

*木材の需要を喚起し、森林の健全化という循環を。

地球環境と人間環境の問題を木造建築が改善

*木を伐って、植えて、長く使う。温暖化対策にも有効。

*人間の心の問題。そもそも人間は森に住んでいました。木がないと落ち着かないのです。

*木は鉄筋やコンクリートより二酸化炭素の排出を抑えられます。

*間伐材や端材をバイオマス発電に使えると、地域内のエネルギー循環も可能に。

*木の最大の特徴は軽さ。その軽さはコンクリートの約5分の1。

*住宅のレベルで考えると、日本では木の方が安くつきます。

(2019年11月25日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

